

Tachyon

[タキオン]



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員のspiritから発せられるよう念願し、本誌のタイトルとして選んだのが「タキオン」(Tachyon)である。Tachyonは、未だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「ταχυς(速い)」を語源とする。

学長 山本 博

(図出典：Institut for teoretisk Fysik)

We Enjoy Campus Life

アントレプレナーサークル
(紹介は、裏表紙)

※大学HPでは、広報室学生委員によるサークル突撃取材の記事を公開しています。



01 国際交流・海外連携事業

03 大学TOPICS

04 博士後期課程開設

05 第6回大学祭「青松祭」

06 教員紹介 橋本泰成 臨床工学科教授

07 サークルPick Up、令和6年能登半島地震 被災学生への支援

vol. 12

2024.03

2024年2月～9月

主な大学スケジュール

2月16日(金)～4月5日(金)

春季休業

3月23日(土) 10時～

学位記授与式 @小松市團十郎芸術劇場うらら

4月2日(火) 10時～

入学宣誓式 @小松市團十郎芸術劇場うらら

4月8日(月)

前期授業開始

7月20日(土)

オープンキャンパス

7月26日(金)～8月6日(火)

前期試験(補講・試験予備日含む)

8月7日(水)～9月25日(水)

夏季休業

9月26日(木)

後期授業開始

その他のスケジュールは
こちらから



過去のTachyonは
こちらから



サークルPick Up アントレプレナー サークル

広報室学生委員がアントレプレナーサークルを突撃取材！サークル長の蓮野結女さんと副サークル長の宮下佳さん(いずれも国際文化交流学科)に話を聞きました。

どんな活動をしていますか？

現在のメンバーは7人で、中央キャンパスの講義室で活動しています。週1回、個人の活動報告を行っている他、キャリアサポートセンターの松木先生の就活イベントや地域イベントのお手伝いを行っています。昨年は、八日市商店街の活性化イベントを行いました。また、市役所と共同で赤い羽根共同募金も行いました。



赤い羽根共同募金の活動

サークルを立ち上げた経緯とサークル活動で得られることを教えてください。

大学生のうちにしたかったことを考えたときに、夢に向かってなかなか行動することができない人たちの手助けをしたいと思います。このサークルを立ち上げました。

サークルとしての目標は？

人と関わる仕事をした、海外で働きたいなど一人ひとり夢があるので、それぞれの夢を叶えたいです。

学内、学外で様々な企画をし、活動しているアントレプレナーサークル。今後さらに活動の幅が広がることを楽しみにしています。

自分のやりたいことを見つけることができず、仲間や人脈をつくり、企業とのつながりを持つこともできます。また、自分と同じように頑張っている人が身近にいることでずっと頑張れます。

令和6年能登半島地震を受けて

令和6年能登半島地震により、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方、そのご家族及び関係の方々に心よりお見舞いを申し上げます。被災された皆様の日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。本学では、被災された学生に以下のような支援をしております。詳しくは公立小松大学ホームページでご確認ください。

災害救助法適用地域の世帯の学生に対する奨学金(日本学生支援機構)

- ・家計急変採用(給付奨学金)、緊急採用(第一種奨学金)、応急採用(第二種奨学金)
- ・JASSO 災害支援金(10万円支給)

担当：学生課

家計急変等による住まいの相談

地震の影響を受け、家計急変等により、現在住んでいるアパートに継続して居住できないなど、本学の学生寮への入寮を希望される方はご相談ください。

担当：学生課

心のケア

被災したこと等により、今後の修学の不安や悩み、心身の不調等を抱えている方は、専門の相談員が対応しますのでご相談ください。

担当：保健管理センター

問い合わせ先：0761-23-6610



短期プログラム受け入れ

トungk・アブドゥル・ラーマン大学 (マレーシア) の学生が本学のスタディツアーに参加

10月15日(日)から10月24日(火)までの10日間にわたり、マレーシアのトungk・アブドゥル・ラーマン大学(以下UTAR)の学生5名、職員1名が本学に滞在し、国際交流センターが主催するスタディツアーに参加しました。UTARとは2019年に大学間交流協定を締結後、交換留学生の派遣やオンラインによる学生交流会やウェビナーを実施してきましたが、今回初めて短期でのスタディツアーを開催しました。

UTARの学生たちは、午前中は本学の教員による南加賀地域の産業や自然環境、石川県の伝統行事に関する授業などを受講しました。

また、午後からは本学の学生たちとともに小松市をはじめとする文化施設などを訪問し、九谷焼の絵付け体験などを行いました。



海外連携事業

保健医療学部が JICA 青年研修を実施

12月1日(金)から12月26日(火)の期間、保健医療学部の教員が日本国際協力センター(JICE)中部支所と協力し、国際協力機構(JICA)の令和5年度青年研修「保健医療(地域保健)B」を実施しました。本研修では、カンボジアの医療機関や公的機関で働く研修員の方々に対し、山本学長および保健医療学部の教員による地域保健医療をテーマとした講義や、石川県庁、小松市役所、南加賀保健福祉センター、小松市民病院などの保健医療現場での研修を行いました。研修の終盤では、保健医療学部の学生との交流会も実施し、大学生活について発表を行うとともに、カンボジアのダンスや茶道などを通して、互いの文化を体験することもできました。

研修員の方々からは講義を実施した教員に対し、講義時間を超えてたくさんの質問があり、研修での学びを母国の保健医療へ役立てたいという強い思いを感じることができました。また、本学の教員や学生にとってもカンボジアの保健医療を学ぶ貴重な機会となりました。



交換留学

トungk・アブドゥル・ラーマン大学 (マレーシア) 交換留学体験記

国際文化交流学科3年 明園侑奈さん (2023年6月～2024年1月 留学)

文化の多様性や日本では得られない価値観に惹かれ、マレーシアへの留学を決めました。大学では心理学や社会学の授業を選択し、特に異文化におけるコミュニケーションの違いについて学びました。どの授業にもグループ課題があり、現地の学生と一緒にレポートを書いたり、プレゼンの準備をしたのは大変でしたが、とてもいい経験になったと思います。休日は友人やハウスメイトと一緒に遊びに行くことが多く、多国籍ならではのいろいろな食文化を楽しみました。また、マレーシアは地理的に海外旅行がしやすいのも魅力だと思います。私も学期休みなどを利用してカンボジア、オーストラリア、ベトナムに行ってきました。自分が知らない文化やそれぞれの国民性を実際に感じることはとても刺激になり、価値観が大きく広がりました。留学を経て、新しいことへのチャレンジに対して前向きな気持ちが強くなったと感じています。この経験を活かし、将来は国際交流の支えとなるような仕事をしたいです。



その他の留学体験記はこちら



国際交流・海外連携事業

2023年は新型コロナウイルスが5類感染症に移行となり、海外インターンシップや協定校交換留学、短期留学プログラムなど、様々なプログラムを開催することができました。その一部をご紹介します。



インターンシップ

産官学合同シリコンバレー研修 (アメリカ)

8月20日(日)から8月26日(土)の7日間にわたり、アメリカ合衆国カリフォルニア州のシリコンバレーに学生と北陸地域の社会人を派遣する「産官学合同シリコンバレー研修」を開催しました。社会人5名、学生12名(うち大学院学生5名)の計17名が参加しました。

今回で3回目を迎えた本研修は、「自治体DXによる効率化とDX・GXを活かしたスマートな社会づくり」をテーマに、小松市職員が初めて加わりました。また、山本博学長とともに、宮橋勝栄小松市長にも本研修に同行いただき、現地オフィスでの情報交換やフィールドワーク、大学・企業等への表敬訪問などにより、今後の大学及び企業との連携推進を図りました。

前半は、現地企業の方による特別講義が行われ、日本とシリコンバレーの違いや働き方、考え方について学びました。後半は、学生と社会人が協力してグループワークに取り組み、現地企業やスタンフォード大学、サンフランシスコ公共図書館などの施設を訪れ、最終日のグループ発表では、各グループがインタビューや視察で得た成果をまとめ、参加者全員と共有しました。短い期間ではありましたが、グループで団結して課題解決に取り組み、とても充実した研修となりました。

研修報告書はこちら



インターンシップ

アンコール世界遺産インターンシップ (カンボジア)

9月5日(火)から9月15日(金)の期間、本学と交流協定を締結しているカンボジア国立アンコール遺跡整備公団にてインターンシップを行いました。金沢大学環日本海域環境研究センターと共同で実施したインターンシップであり、今年度は在カンボジア日本大使館の「日カンボジア友好70周年記念事業」及び「日ASEAN友好協力50周年記念事業」に認定されています。

本学からは国際文化交流学部の2年生1名、3年生2名、4年生2名の計5名が参加しました。学生たちはグループごとに、アンコール世界遺産公園の水環境の維持管理、地域社会支援、観光開発・誘致などに関する業務に取り組みなど貴重な経験をすることができました。最終日には、アンコール遺跡整備公団の責任者の方による面談試験を受けた後、同公団の副総裁 Chandaroat 氏から修了証書を授与されました。

インターンシップの研修報告書はこちら



公立小松大学

TOPICS 大学

2023年8月～2024年2月

輝く公立小松大生

加賀れんこんクリームソーダを共同開発
松井 瑠菜さん(国際文化交流学科4年)



第41回全日本中国語スピーチコンテスト石川県大会1位
後藤 友香さん(国際文化交流学科3年)



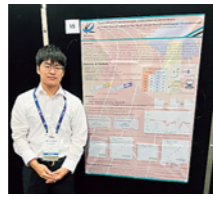
第1種ME技術実力検定試験合格
(公社)日本生体医工学会
中桐 茉奈さん(臨床工学科3年)
野崎 桜花さん(臨床工学科4年)
伊藤 翔音さん
(ヘルスケアシステム科学専攻修士課程1年)



応急手当技能競技会 学生団体部門で看護学科のチームが最優秀賞
油井 一晟さん、梅下 龍世さん、中田 響月さん
(いずれも看護学科2年)



国際会議IEEE EMBC 2023で発表
河島 遼太郎さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻2年)



ボートサークルが小松市民レガッタ 成年男性の部で優勝
新村 隆さん(生産システム科学科4年)
國定 祈良さん(生産システム科学科1年)
佐々木 諒人さん(生産システム科学科1年)



★大阪税関業務説明会に参加 10/17 (火)

小松空港内で開催された財務省大阪税関の業務説明会に学生12名が参加しました。麻薬探知犬チームによるデモンストレーションや、かばんの中から不審なものを発見する旅具検査模擬体験など、楽しく税関の仕事を理解することができました。



★市民公開フォーラムを開催 10/29 (日)

サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオで「次世代考古学が拓く未来」をテーマに市民公開フォーラムを開催し、市民や学生、教職員など約80人が参加しました。次世代考古学研究センター中村誠一センター長が宇宙線ミュオン粒子の物質透過力を活用した次世代の非破壊的考古学調査法を開拓する試みを紹介するなど、本学次世代考古学研究センターの3名の講師が講演を行いました。



★どんどんまつり あんどん行列 10/7 (土)

国際交流センター公認サークルである KOMA Friend が中心となり、留学生を含む学生、教職員26名が小松市どんどんまつりのあんどん行列に参加しました。学生たちは大学オリジナルのはっぴ姿で、様々な言語で交流を楽しみながら、あんどんを曳き、芦城公園からJR小松駅前まで練り歩きました。あんどん行列の最後には、小松駅前市民公園で行われたPRタイムにて KOMA Friend の紹介と大学祭の宣伝を行い、多くの市民の方々にあたたかいお声がけをいただきました。



★小松の地域資源を使ったワークショップを開催 12/18 (月)

国際文化交流学科 朝倉ゼミが企画したワークショップをKomatsu 九で開催し、親子連れや高校生など約60人が参加しました。繊維工場の端材や九谷焼の陶片などを樹脂で固め、クリスマスオーナメントを作りました。



★防災食試食会を開催 12/21 (木)

中央キャンパスで防災食の試食会を行いました。炊かなくてもお湯や水を注ぐだけでご飯になるアルファ化米を用いたご飯を約100名の学生・教職員に提供しました。また、担当の職員は災害時の安否確認システムであるSafetylink24の配信訓練への回答を呼びかけました。防災食の試食とSafetylink24の配信訓練への回答で、災害時の対応を学ぶ良い機会となりました。今後も危機管理を高める訓練を継続して行っています。



★シーズ・ニーズマッチングシンポジウム 10/14 (土)

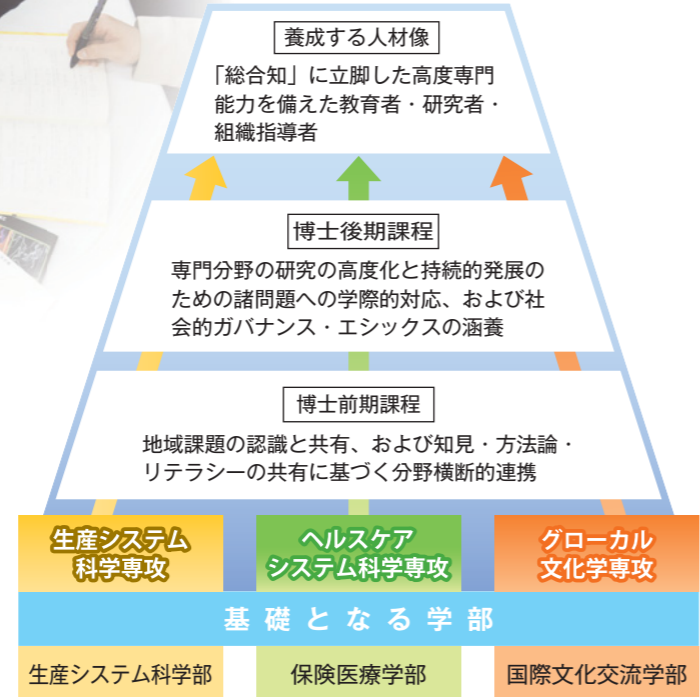
中央キャンパスでシーズ・ニーズマッチングシンポジウムを開催しました。「産学合同で進める新たな人材戦略」を検討することをテーマに実施し、学生は企業の人材育成戦略や、企業が求める資質を学びました。学生生活をどのように過ごすか、多くの学生が活発に質問をして自身の将来について考える良い機会となりました。



博士後期課程を令和6年4月に開設

博士後期課程では、課題発見能力及び社会実装力を備えた次世代人材、地域産業の高度化と地域発イノベーション等を担う高度人材、未来を支える教育者・研究者・組織指導者、「総合知」に立脚し、高度な専門能力を備えた人材を育成し、地域・国際社会のサステナビリティへの貢献をめざします。

地域・国際社会のサステナビリティへの貢献



専攻名	学位	就業年限	入学定員
生産システム科学専攻	博士(工学)	3年	2人
ヘルスケアシステム科学専攻	博士(保健学)	3年	1人
グローカル文化学専攻	博士(国際文化学)	3年	1人

教員紹介

KOMATSU UNIVERSITY



橋本 泰成 教授
(臨床工学科)
Yasunari Hashimoto

ブレイン・マシン・インタフェースをリハビリテーションに生かす

私の研究の核になっているのはブレイン・マシン・インタフェース(BMI)という技術で、これは脳とコンピュータなどの外部機器を直接的に結ぶ技術です。BMIは脳の活動を検知し、それをコンピュータが理解できる形に変換して、機器を制御することを可能にします。その性質から、重度肢体不自由者のコミュニケーション支援などの役割が期待されています。私が研究で開発したBMIシ

ステムでは、脳波の情報を使って、BMI使用者の脳とコンピュータをつなぎ、使用者が意識だけで仮想空間内の分身(アバター)を動かすことができます。このシステムでは、ミュー波とベータ波と呼ばれる脳波を使っていて、これらの脳波は人間の手の足の運動機能に関連していることがわかっています。驚くべきことに、手足の運動機能を日常でほとんど使っていない重度肢体不自由者でも、長期間にわたってこのBMIを使用することで、脳の神経活動パターンが変化し、運動に関連する活動が増えることが確認され



(左から) 脳波のグラフ、頭部に機器を付け、脳波を測っている様子、脳波を3次元で分析している様子

教育と研究は、お互いに密接に結びついていると考えています。学生の教育においては、彼らの好奇心や興味、疑問に応えるために、私も日々学びを深める必要があります。学生の発想が新しい研究につながることもあり、卒業

教育と研究のつながり

ました。この発見を基に、脳卒中片麻痺患者のリハビリテーションにBMIを適用する研究を進めています。これにより、より効果的なリハビリテーション手法の開発に寄与できると期待しています。

医学と理工学をバラバラに学ぶことができる臨床工学科
本学の臨床工学科では、先端医療から地域・在宅医療まで、幅広い分野で活躍できる臨床工

私の休日



5歳になる双子の子供がいて、休日やプライベートは主に子供中心に過ごしています。趣味の一つに将棋があり、空き時間には対局中継を見ることがあります。

学技士になるためのカリキュラムが整備されています。医学と理工学をバランスよく学べる4年制大学は多くありません。医療機関で働くのはもちろん、大学院進学によるキャリアアップや医療機器メーカーの開発部門での就職など幅広い選択肢があります。

ステージ

特設ステージでは、吹奏楽サークルやダンスサークル、軽音サークルが日ごろの練習の成果を披露。迫力のあるステージに会場はくぎ付けになりました。



ラーマン大学からの留学生もマレーシアの音楽に合わせてダンスを披露しました。

模擬店

フライドポテト、豚汁、チュロス、わらび餅ドリンク...と様々な模擬店が立ち並び、来場者の笑顔もあふれました。



脱出ゲーム・縁日



謎解きしながらゴールを目指す脱出ゲーム。なかなか難しく、出てこれない人も?



縁日も親子連れで賑わいました!

ミニ講義・学科紹介ブース



教員によるミニ講義や学科紹介ブースは高校生や学生の保護者で賑わいました!



同窓会総会

同日に同窓会総会を行いました。会員からは同窓会の活動をより良くするための意見が挙がり、今後の同窓会活動の発展に向けた良い機会となりました。同窓生には青松祭の模擬店で使えるチケットを配布。総会後に懐かしいメンバーと青松祭を楽しみました。



青松祭実行委員で力を合わせ、青松祭を作り上げました。